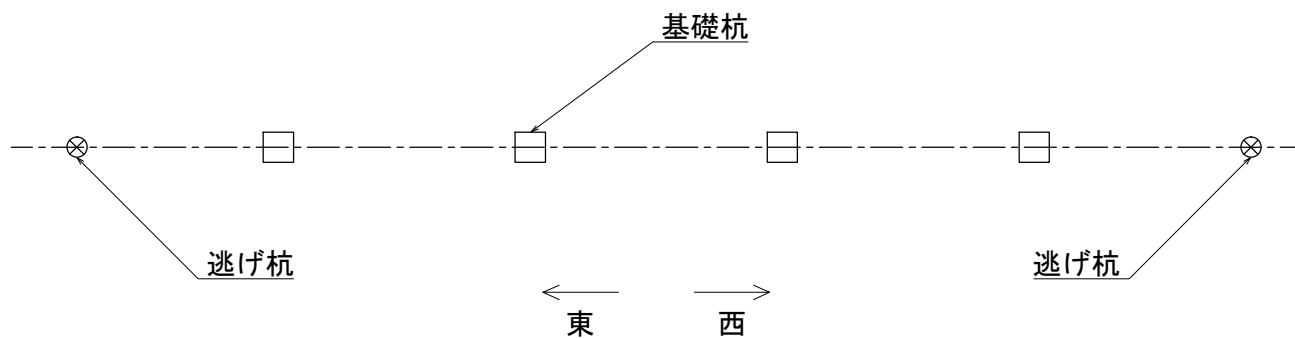


① 架台位置合わせ用の測量

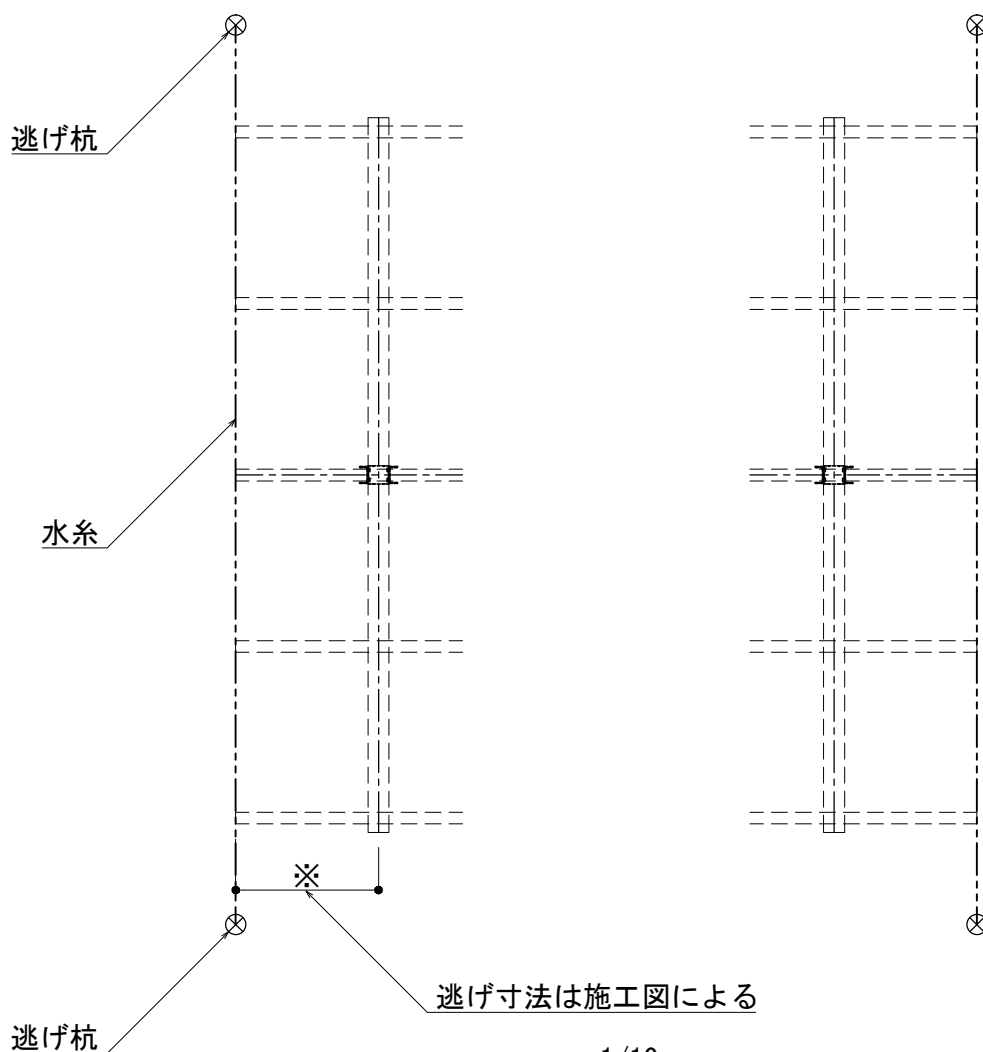
①-1 「基礎杭、通り出し測量」

基礎杭の設計上の通り芯を合わせるため、杭端部からの逃げ杭を打ちます。



①-2 「架台、総幅合わせ測量」

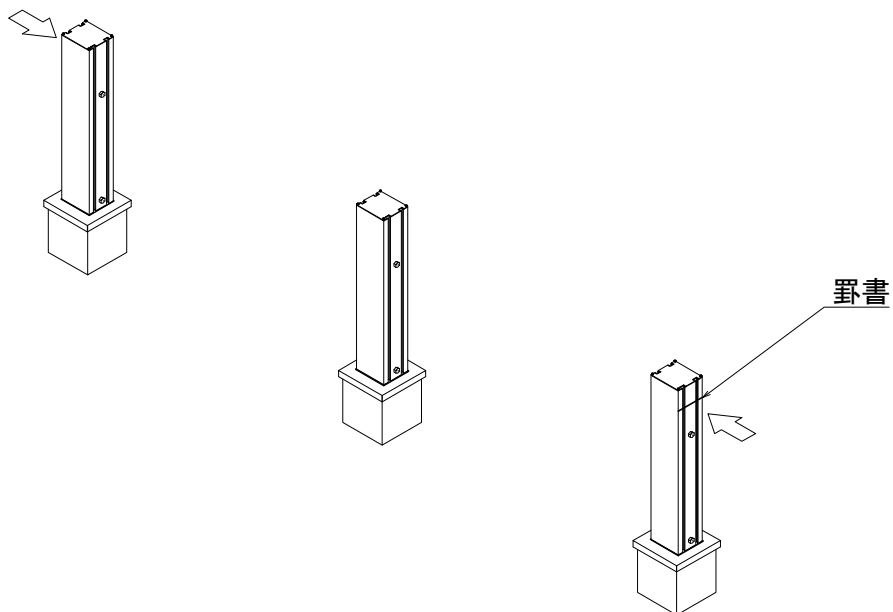
架台、横材の総幅、端部伸びを決める基準になる逃げ杭を打ち、水系を張ります。



② 柱ブラケット・傾斜材の取付

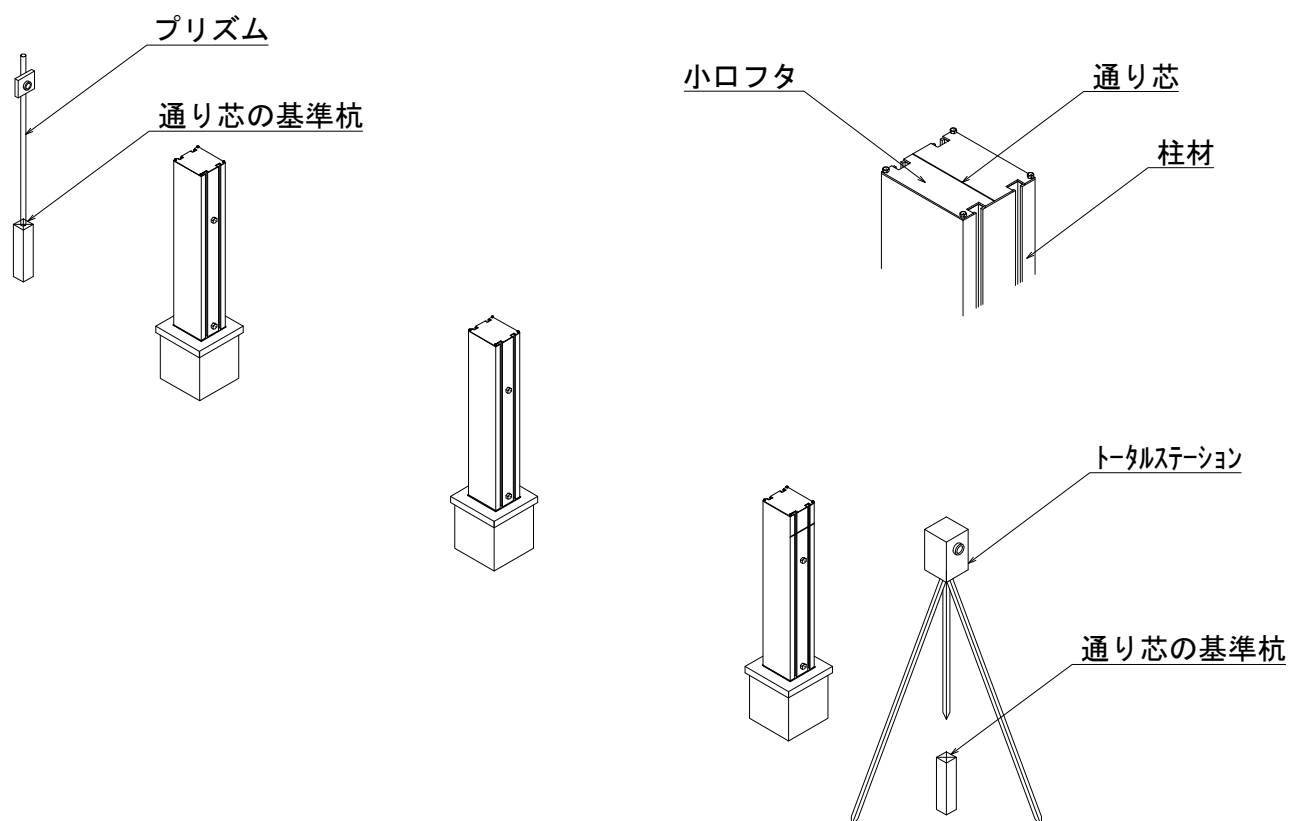
②-1 両端柱材側面に柱ブラケット下端の基準線を罫書きます。

罫書は柱材天端より80mmの位置（設計上の数値）にオートレベル等で位置を出してください。

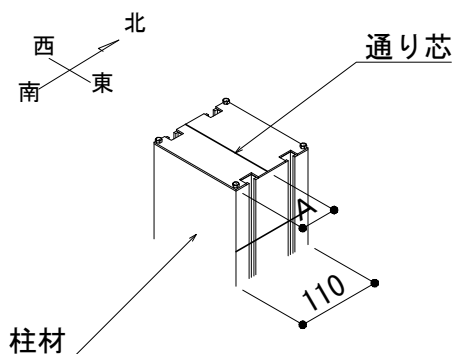


②-2 ①-1で設置した基準杭にトータルステーションを据えます。

プリズムを視準して通りを合わせて、柱材に通り芯を罫書きます。



②-3 通り芯寸法Aを計測し、下の式に当てはめます。



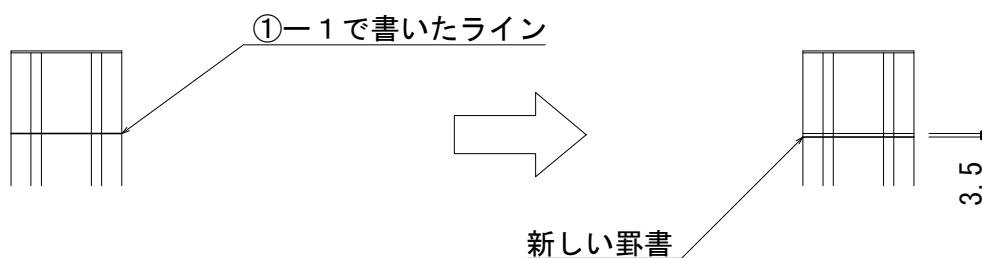
$$(110 \div 2 - A) \times B = C$$

※B寸法=モジュール傾斜 10° のとき「0.176」
20° のとき「0.364」

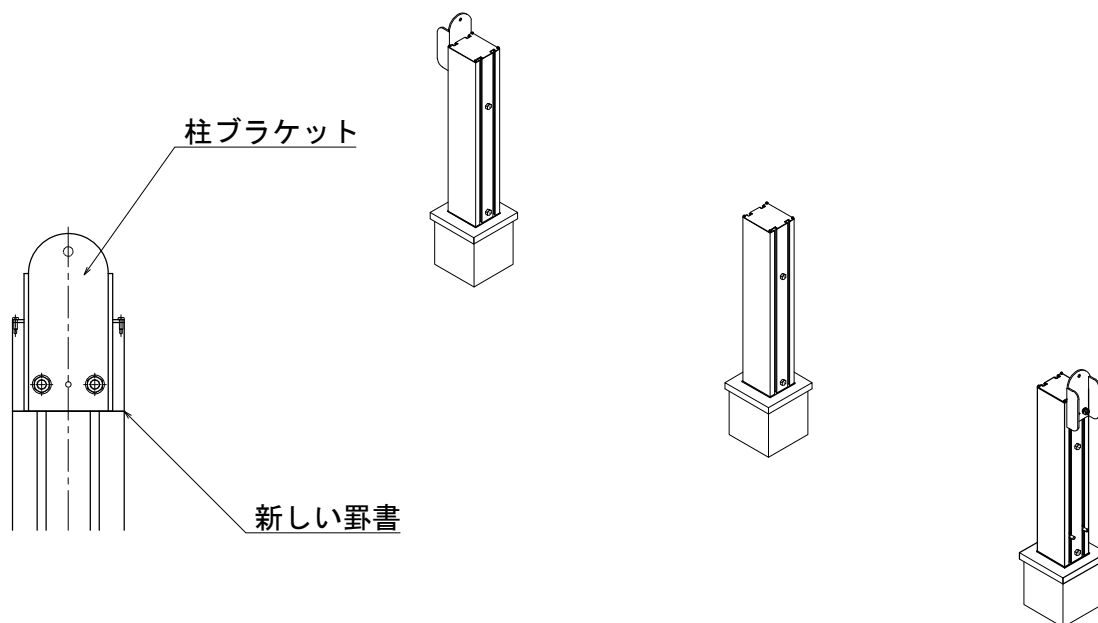
②-4 C寸法分、柱材の野書ラインをずらして書き直します。

(例) A=75、モジュール傾斜10° の場合

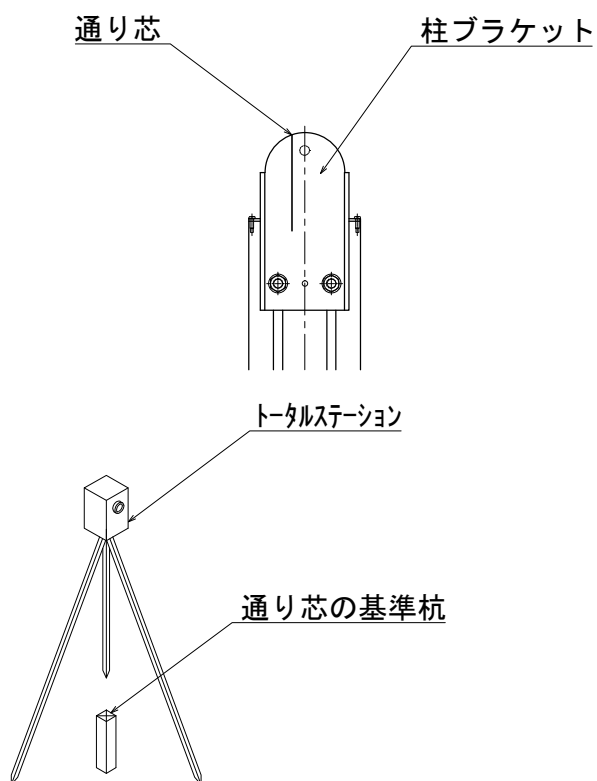
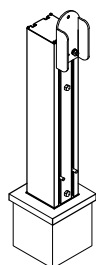
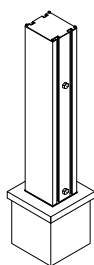
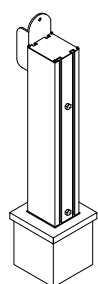
$$(110 \div 2 - 75) \times 0.176 = -3.5$$



②-5 新しい野書に柱ブラケットの下端を合わせて固定します。



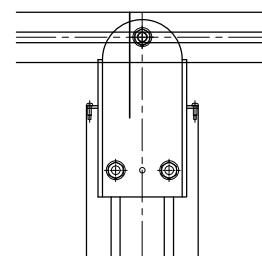
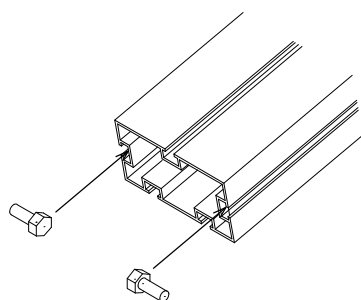
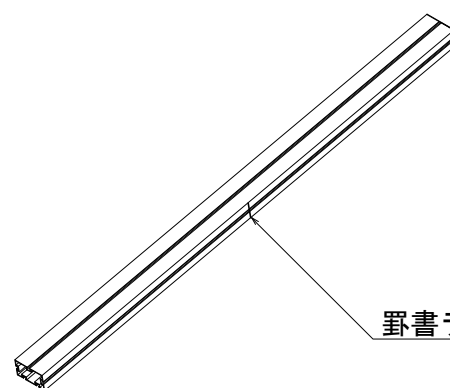
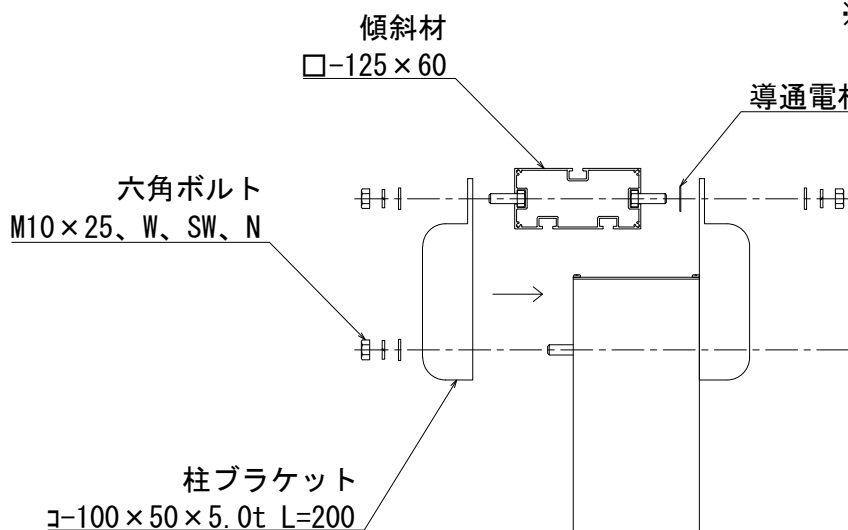
②-6 柱ブラケットに通芯のラインを引きます。



②-7 傾斜材にボルトを通し、柱ブラケットに取付けます。

このとき、水平器で水平を確認しながら固定してください。

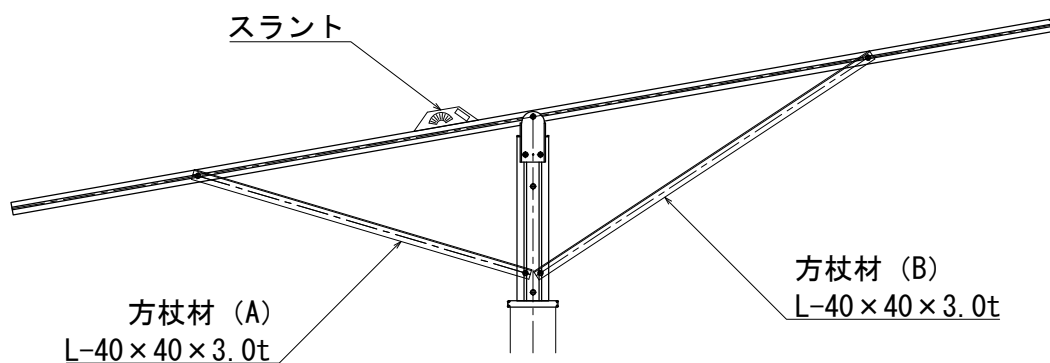
※傾斜材の向きは、
小口フタのついている面が北になります。



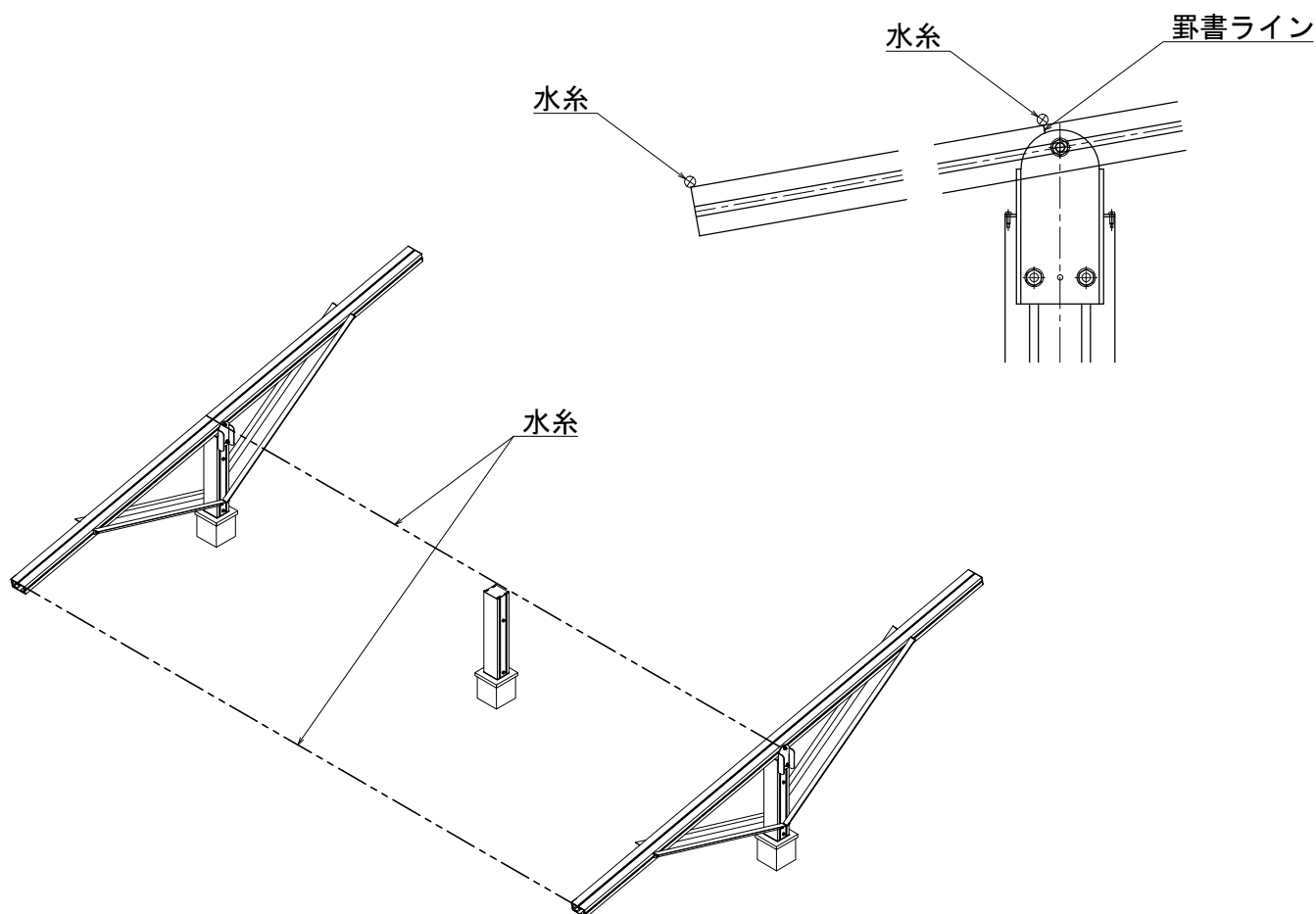
※柱ブラケットのラインと傾斜材中心にある罫書ライン合わせてください。

③ 傾斜の設定、方杖材・ブレスの取付

③-1 スラントで角度を合わせながら、方杖材を固定します。

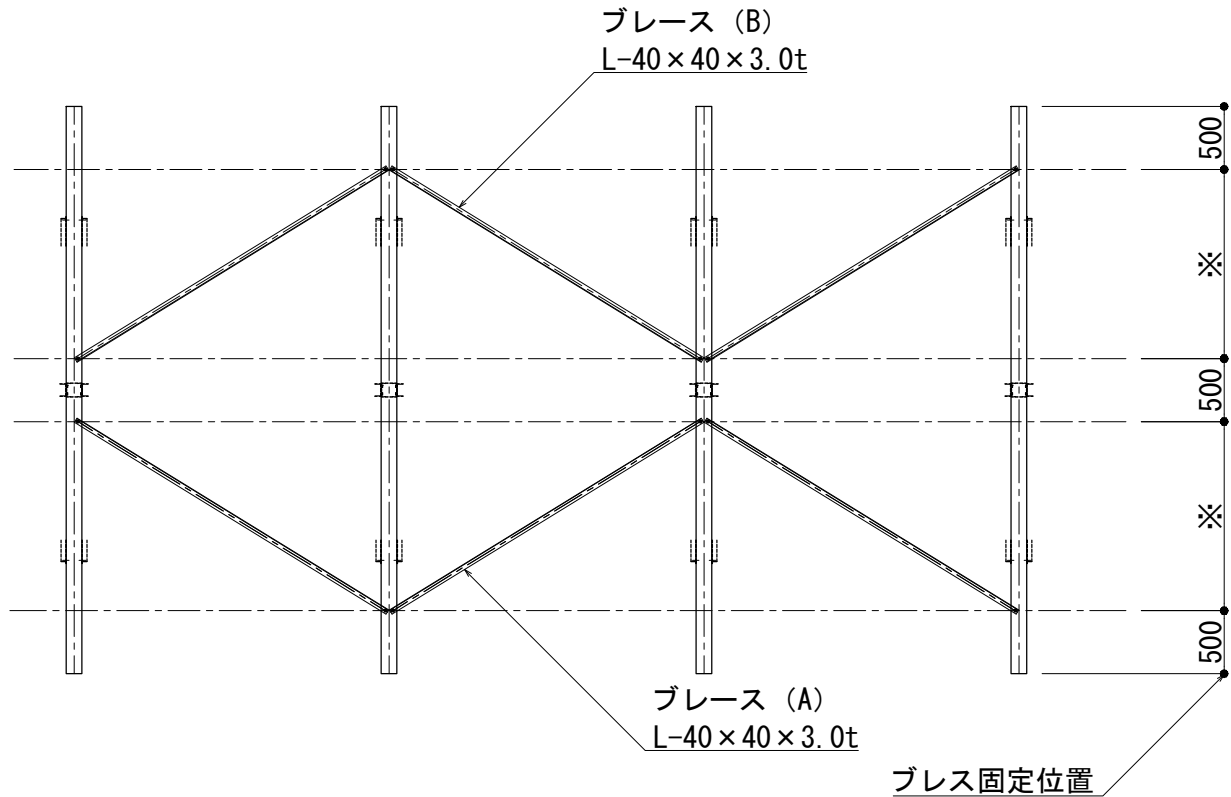


③-2 傾斜材の先端、傾斜材の中心に水系を張る。



③-2 中間部に柱ブラケット・傾斜材・方杖材を取付け、水系を基準に角度等を合わせます。

③-4 ブレスの向きは「平面図」、ブレスの固定位置は「平面詳細図」をそれぞれ参照して取付けます。

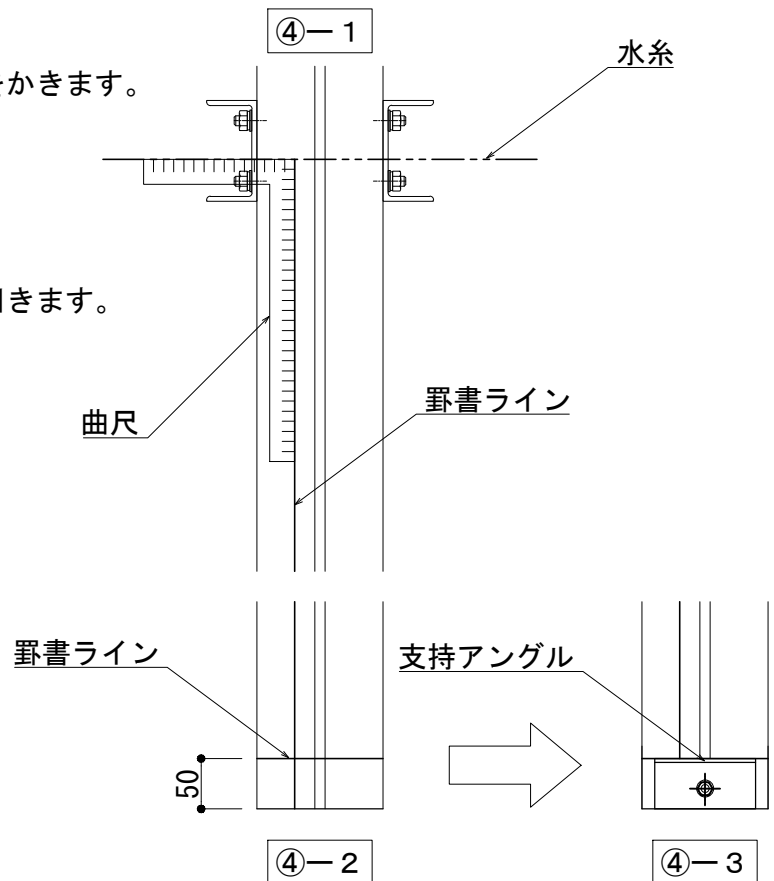


④ 支持アングルの取付

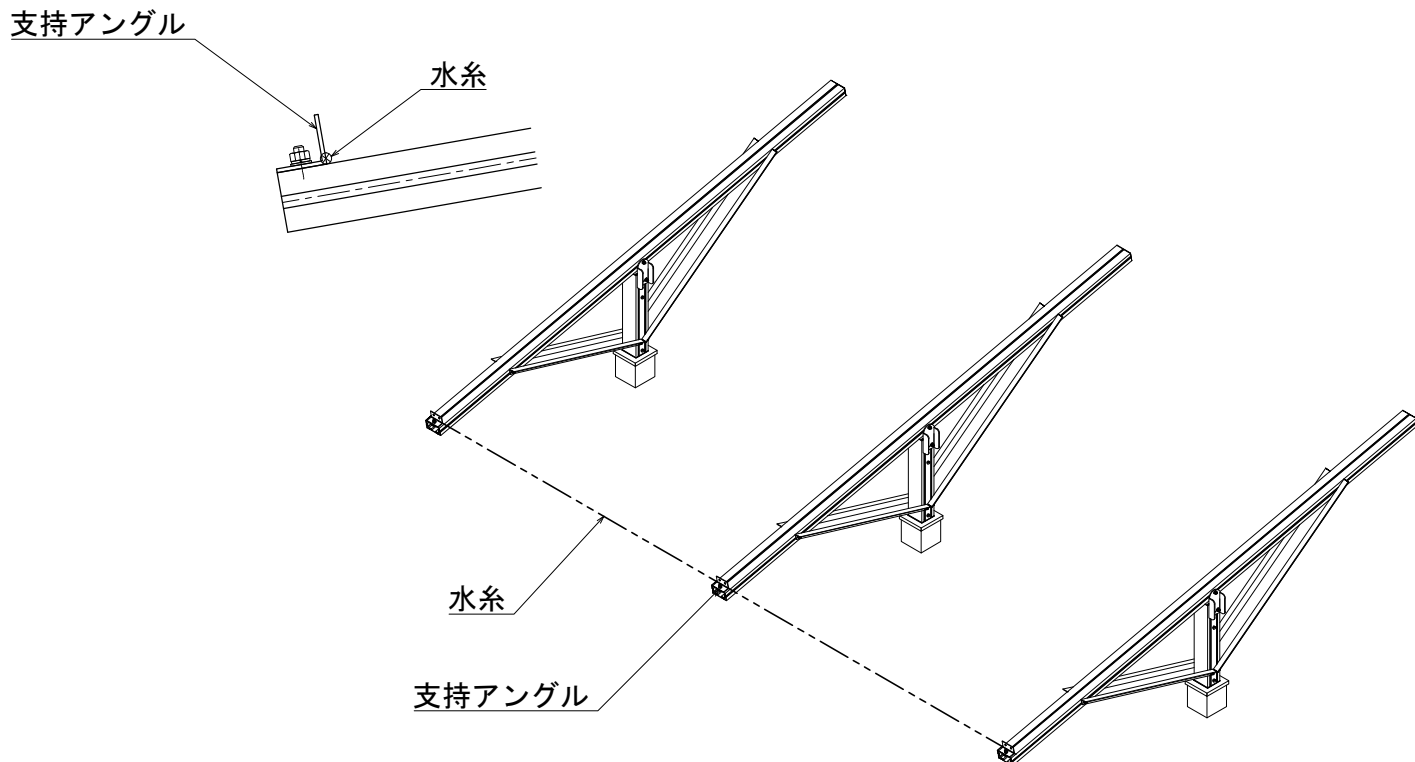
④-1 水系から南に向かって垂直に線をかきます。
(端部のみ)

④-2 傾斜材の面から50mmの位置に
④-1の線に対して垂直な線を引きます。

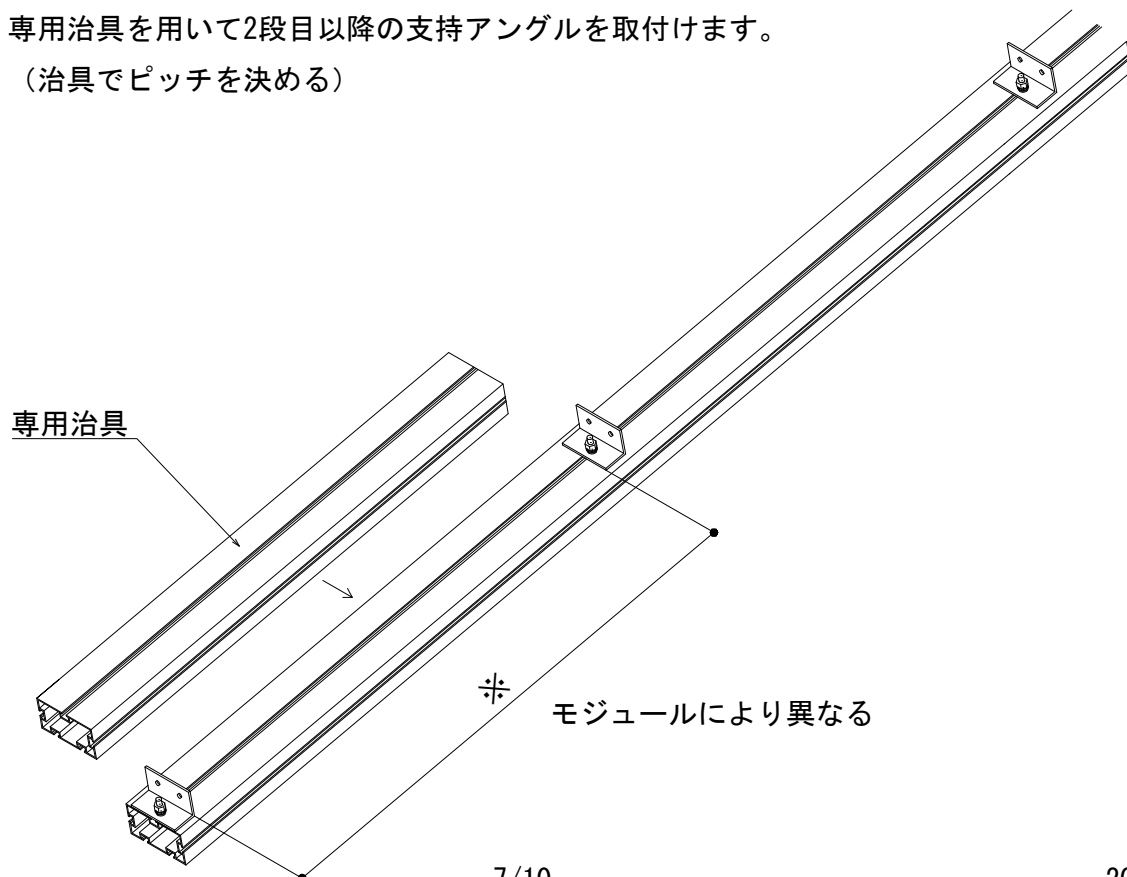
④-3 ④-2の線に合わせて
支持アングルを取付けます。



- ④-4 両端に取付けた支持アングルに水系を張り、
水系に合わせて中間部の支持アングルを取付けます。



- ④-5 専用治具を用いて2段目以降の支持アングルを取付けます。
(治具でピッチを決める)

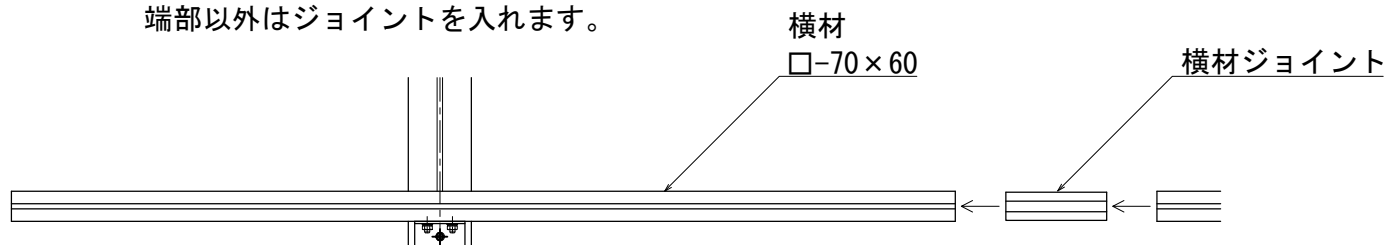


⑤ 横材の取付

⑤-1 横材の配置

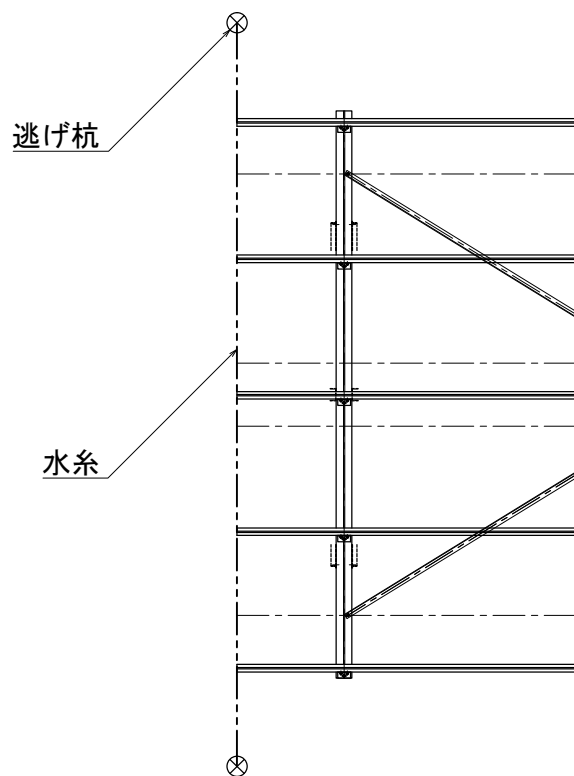
支持アングルの上に横材を並べます。

端部以外はジョイントを入れます。

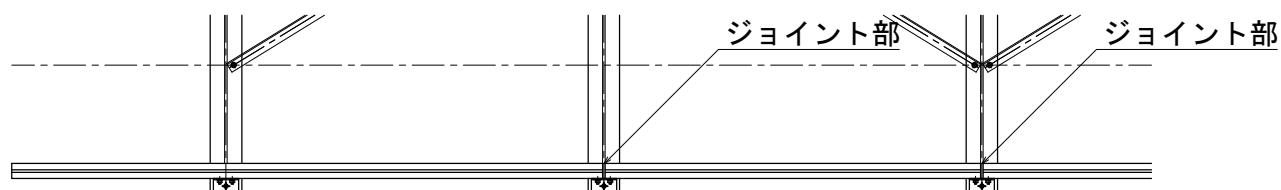


⑤-2 端部横材位置合わせ

上方から水系に合わせて横材位置を決めます。

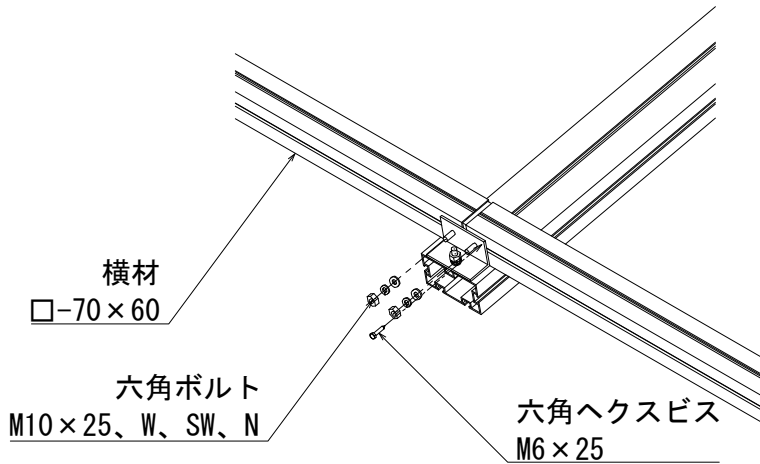


両端部を合わせたら中間部はジョイント部で調整してバランスをとります。

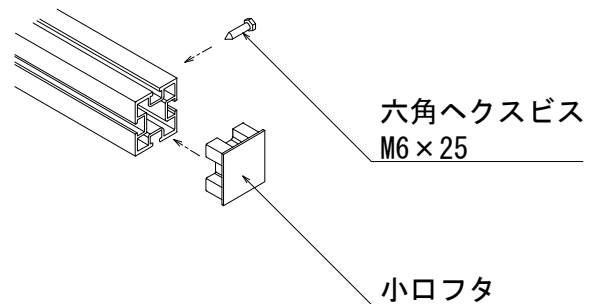


⑤-3 横材位置決定

位置が決まったらボルトを本締めし、ジョイント部に六角ヘクスビスを打ちます。



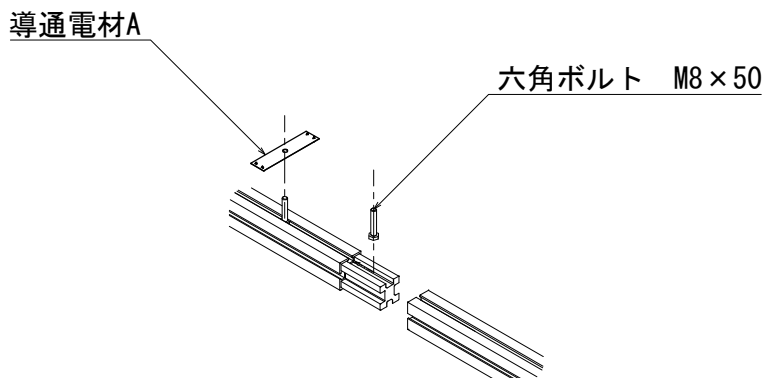
横材の端部に小口フタを取付けます。



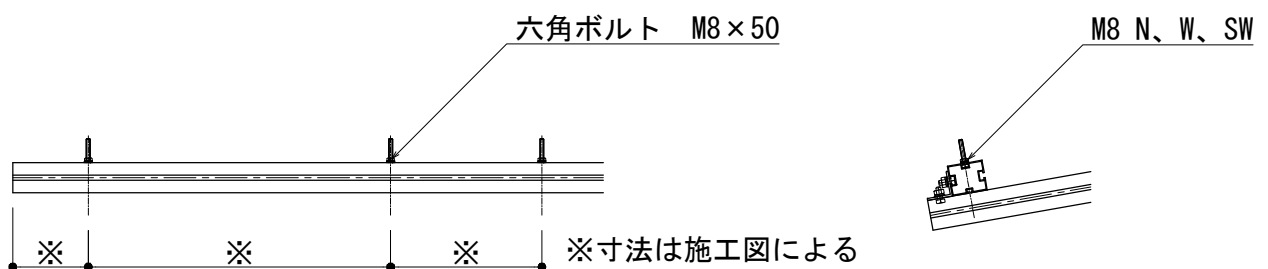
⑥ モジュールの組付け

⑥-1 モジュール押さえ位置合わせ

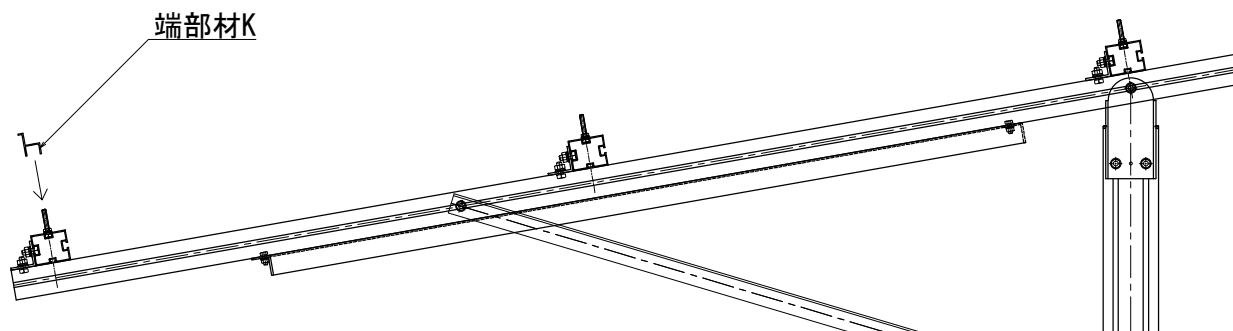
横材のボルトレールにボルトを通し、導通電材などを配置します。



施工図の詳細図で押さえ位置寸法を確認し、
スケールで位置を合わせてナット固定します。



⑥-2 横材、上段・下段に端部材Kを配置します。



⑥-3 モジュールの配置、固定

下段から順にモジュールを配置し、モジュール押さえ材をセットします。

